

諸家系譜

位  
付本多

庫文官政太		和書門	
二二五	三三六四九	冊架	函號類

共二百廿五内

庫文閣内		和書	
五二四	三三六四九	冊架	函號類

共八十五

内閣文庫	
番號和	32649
冊數	225 (54)
函號	156 23



ほ  
後三

先祖書

左系氏  
子孫傳記  
坂田家系

新刊書

小池源氏傳記

中多尾加平次

三

新刊

後系姓

本多

河原田河原高直の御子と稱せられたる本多氏

宗之助

九三三

龍之助

九三三

善之助

九三三

河原田河原高直の御子

光平

河原田河原高直の御子

河原田河原高直の御子

叔

河原田河原高直の御子

妻

河原田河原高直の御子



元文二年十月日知

館林様 且為附外津田河原所將國政日知

此書は信田及平九月十日野野部幸兵衛様  
日性家并に抄等

勝堂<sup>シテ</sup>

此所より

奴 小橋信忠様并女

毒 不所為 曲測中屋門より家書

上白書

此書は信田及平七月十日又勝堂信田河原所將國政  
所付見し候より外

年月日不詳 所城少落し居る様

年月日不詳 所城少落し居る様

河原信平人白文記に成る

此書は元文二年九月十日幸兵衛様并女

運信家并同不

勝直 并に命

奴 上同

元文二年九月十日津田河原所將國政  
此書は信田及平九月十日津田河原所將國政

果 甚しき也

奴 上同

年月日... 改易... 抄本

女子

抄本

同... 宗...

保道

抄本

卷八

人... 抄本

曲... 抄本

寶文

抄本

曲... 抄本

書

抄本

抄本

延慶七年己未年三月九日... 抄本

自... 抄本

同... 抄本

淨光院... 抄本

宣統元年二月廿日

將先德所遺之公以及其存之

存保之在戊午六月廿日

卷也既係門用人之宗也故其書後至

如部之此部之書 門部之此部之書

須乞仁中達而軒則自安之定新德仁也

書如後之仁也之書也 此部之書

其後包表仁也

宣統元年九月廿日 國門書也

所免而存也

同十乙巳年二月廿日 卒於七十

宣統元年九月廿日

知右梅之書

後漢師

保考

如

象

素

書

二傷在也 久曼子

印戶

門同自之

古子保也 宣統元年二月廿日 波部

以中世銀也 以書入 宣統元年二月廿日

伊藤

同十乙巳年二月廿日 宣統元年





同平因三月十日卒於甲子年三月十日

某

初卯 子世

女

三陽在居之

女子

中校忠信西之

女

某

女子

小善信

三陽在居之

女

三陽在居之

女子

女

某

名昭所及又保正不長也

光貞

初石女西席

後永年改

養母

初石

某

光貞

中平在居之

某

中平在居之

某

中平在居之

某

中平在居之

某

室階之三年三月十日卒於甲子年三月十日

昭之及信之

昭之及信之



実母

家母

女子

母

妻

長兄の妻は元有吉の女に嫁す

養女

中人

常田市尾門定保妻

実父

常田市尾門定保妻

実母

妻

女子

母

知

上野町尾門定保妻

先故

尾門

母

有母

生母

寛政六年甲寅年二月の初 御見立書

先妻

有母

母

有母

女

母

有母

女

母

有母

女

母

有母



友原氏

中多

先祖九條左大臣師輔公之代  
本多右兵衛尉治家後胤中傳

幕之致九之目立葵

家之致九之目立葵

形之致九之目本之字

元祖何人少多字

始年人

加賀守

光次

永正三丙寅年出

権現保 上經冬列国所 印在威帝 正新書

数頁 印澤信春仁彦長二代氏正月朔迄  
相列尚系九千二歳之歳之印

女子 三列信信 三浦友信直事

女子 少上信藏義居事

光信 新太郎 比呂九

右光信信

大神君仁家 印劫氣注思成原正成

光平 光直 高平 少年成 抄之文

弘治之西辰年出也

権現様上 右印 印目見於相傳國新書

下迄

権現様 印到物頂戴供以祈符信

右印到物之寫

一 白三衣

長谷部白家瀬

一 九指衣九平

長谷部加治門

合或書衣

右印到物也 仍中件

天正四年九月廿 印印

右印到物也 仍中件

権現様上 於遠列謹相從 印在藏之新書

慶長十九甲寅年六月 御評儀奉仕

古禮儀様也所奉仕人御若初元和八戌年九月十日

之檢七歳之病死御九山御年三才也此衣  
得體儀日用

光直 元文

高野寺書院御儀自復字文記也活法所家也

正重 新撰所 高野所

右正重儀是活法所也元平表也

光止 元文

元和六年申年大御若初元右御所書上云

重忠 信長所 法正所

子文仁 忠長若賜之百石儀也  
大御若初元申年中右御所書上云

正重 新撰所 高野所

實 加賀守元次之曾

天正十五丁亥年出也

古禮儀様御代大御若也

大御儀様奉仕 御利物頂戴仕今以御持儀

右御利物之寫

相模國高野郡  
新井村百石在  
柏尾村百石在

或可或後石之事  
今復而之能全  
之知必也

宣元永二  
三月十日

山崎嘉兵衛

宗馬  
上質  
此有高山麓火門四箇如後以也  
坂合之石砂箱石内給後  
乙酉年三月十日  
流石運相流口書

勝光  
羊之節  
小半次

右言時新行若七節

正次  
初名 嘉兵衛

元知五乙未年出也

大藏院様所代宣元永七庚午年七月又宣元嘉兵衛氏音

山崎石より至七喜所と云其後守多郎君又

藏者院様所代宣元初皆門山城と雖も其後宣元

宣元院様所代宣元松浦内城元知と宣元永七庚午年

九月十日宣元永七庚午年  
九月十日宣元永七庚午年

妙子  
大田君  
大田喜兵衛









東 東  
左近所 早世  
早世

正理 姑老追 助命 喜之所 甚以節

春 春  
右近所 天明三 喜年十月廿五日 女行所  
上御所  
曾父 初君 依 中 職 長 寧 以 男  
曾母 大所君 松 水 希 大 臣 政 年 廿  
素 命 若 福 喜 年 廿 日  
早 田 孫 喜 信 有 女

右近所 天明三 喜年十月廿五日 女行所  
上御所  
曾父 初君 依 中 職 長 寧 以 男  
曾母 大所君 松 水 希 大 臣 政 年 廿  
素 命 若 福 喜 年 廿 日  
早 田 孫 喜 信 有 女

天明三 喜年十月廿五日 女行所  
上御所  
曾父 初君 依 中 職 長 寧 以 男  
曾母 大所君 松 水 希 大 臣 政 年 廿  
素 命 若 福 喜 年 廿 日  
早 田 孫 喜 信 有 女



如部中... 同平... 天明... 自... 山... 所... 官... 同... 延...

三利 乙二部

實父 實母 老妻 右... 左... 延...

和儀田子官在國此也後以養子以成  
官及之卒官年二十有九官子類國臣  
二月九日初之通者子也 後以官子  
沙列先和年記也子也 後以官子  
三月九年九月十日  
御目見在若洲登舟又就之也

東

海三節

母

小川和子許段女

實政十四年正月廿五日於武列  
石之通沙列在能成之

但實政以三年七月經院之書書  
物院之書書書書書書書書書書書

高石石 相傳國也也卷所上國或藏

昔石石也

川

但

此書院也  
此書院也

洋領在浦卷書所

力七歲

實政十一已未年

此書院也

也

は

物取地  
ありし

及  
上ノ五

系譜

未上ノ月廿八日  
小室系系譜

麻呂系  
五七系系譜

小室系系譜  
小室系系譜  
小室系系譜



藤原姓

本多氏

光祖内舍人即秀豊後國中多郷配流從是家名本多下稱申儀

大職冠鎌足公之後胤本多内舍人助秀九代

中多能左為重正三男

重正之系譜者家元

幕中之致

家之致

同 曆致

家祖

重玄

木國 生國

冬河

中多九藏

右五卷後

控規原知如所出收物初天文字其奉八月廿  
權規原知藏之收物上以向長山定物也所  
以知所出後以於之別百身又之山原知  
以知所出後以於之別百身又之山原知  
控規原知藏之收物上以向長山定物也所  
以知所出後以於之別百身又之山原知  
以知所出後以於之別百身又之山原知  
以知所出後以於之別百身又之山原知  
以知所出後以於之別百身又之山原知

其以後敵之九卷首之送口收物之河  
法而討死之各年數之知之也法在  
春光院黃山之堂云

秀云  
中必之河  
中多九卷

右五卷後

控規原上意  
以復以又九卷首之送口收物也  
討死之九卷首之送口收物也  
以復以又九卷首之送口收物也

市原子... 此... 後... 文... 九... 年... 云... 山... 人... 知... 云...  
山... 有... 在... 古... 市... 原... 知... 年... 云... 此... 知... 思... 以... 方...  
山... 有... 知... 之... 後... 亦... 以... 字... 子... 山... 云... 此... 結... 傳... 傳... 云...  
此... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云...

惟... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云...

山... 有... 在... 古... 市... 原... 知... 年... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云...

二... 所... 信... 爲... 極... 爲... 爲... 此... 爲... 善... 後... 亦... 以... 字... 子... 山... 云... 此... 結... 傳... 傳... 云...

山... 有... 在... 古... 市... 原... 知... 年... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云...

二... 所... 信... 爲... 極... 爲... 爲... 此... 爲... 善... 後... 亦... 以... 字... 子... 山... 云... 此... 結... 傳... 傳... 云...

惟... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云...

而... 山... 有... 在... 古... 市... 原... 知... 年... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云...

惟... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云...

山... 有... 在... 古... 市... 原... 知... 年... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云...

而... 山... 有... 在... 古... 市... 原... 知... 年... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云...

上... 山... 有... 在... 古... 市... 原... 知... 年... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云...

而... 山... 有... 在... 古... 市... 原... 知... 年... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云...

天... 山... 有... 在... 古... 市... 原... 知... 年... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云...

今... 山... 有... 在... 古... 市... 原... 知... 年... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云... 此... 知... 思... 以... 方... 云...

拾遺集卷之四 漢書地理志卷之九 人望

人望之望字中報新十部

人望之望字中報新十部

人望之望字中報新十部

人望之望字中報新十部

人望之望字中報新十部

人望之望字中報新十部

人望之望字中報新十部

人望之望字中報新十部

拾遺集卷之四 漢書地理志卷之九 人望

成化長志律之律部也下今之律也

天正十年長久之律部也下今之律也

律部也下今之律也

律部也下今之律也

律部也下今之律也

律部也下今之律也

律部也下今之律也

律部也下今之律也

律部也下今之律也

律部也下今之律也



去月十日... 月... 院... 道... 院

玄里

玄次

玄堂

咸信

如... 八...

如... 十...

如... 十...

如... 十...

全正

如... 院... 道... 院

母

如... 院... 道... 院

石... 院... 道... 院

山... 院... 道... 院

如... 院... 道... 院

大... 院... 道... 院

如... 院... 道... 院

如... 院... 道... 院

如... 院... 道... 院

如... 院... 道... 院

如... 院... 道... 院

重冬

甲子年九月

乙未年九月

母

母

右方重冬 實承 乙未年九月

大猷 浣梅 初月是日 保元 甲子年二月 又吉 留替

昔年 乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月

組入 實承 乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月

乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月

乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月

乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月

組入 實承 乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月

雲 高 浣 乙未年 乙未年 乙未年

玄 正 次 男

玄 正 次 男

乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月 乙未年二月

女子

女子

甲子年九月

玄 正 次 男

玄 正 次 男

右側之信紙是九月の書子之信也

玄雄

信紙

信紙市川  
知事 九月

玄雄 雄俊 明曆二年甲午三月廿一日  
表有院御 御目見江書交之 登拜年 介月

幼少信人 人書 上書 入 信 江 院 進 交  
信 入 古 拜 年 介 年 信 交 之 初 年 交 交  
乙 巳 年 三 月 廿 一 日 知 事 市 川 信 俊 御  
信 知 事 江 院 進 交 之 乙 巳 年 信 月 廿 一 日 年 守  
知 事 市 川 上 行 上 書 市 川  
宗 收 院 信 信 信 信

重正

和國 市川 信俊 市川 信俊  
信 入 古 拜 年 介 年 信 交 之 初 年 交 交

右側之信紙是九月の書子之信也  
信 入 古 拜 年 介 年 信 交 之 初 年 交 交  
九月 廿 一 日

右側之信紙是九月の書子之信也  
信 入 古 拜 年 介 年 信 交 之 初 年 交 交  
九月 廿 一 日  
信 入 古 拜 年 介 年 信 交 之 初 年 交 交  
信 入 古 拜 年 介 年 信 交 之 初 年 交 交  
信 入 古 拜 年 介 年 信 交 之 初 年 交 交  
信 入 古 拜 年 介 年 信 交 之 初 年 交 交



行名

文昭院梅沙代物新京西德元壽  
河改 山光山喜法合 法正初  
其後安及至昭文元元  
十八日病死上月年其葬  
三山寺院因前何能

忠包

忠包 忠包  
忠包 忠包  
忠包 忠包  
忠包 忠包

實母 山平市古乃 女

右八節右馬後宮永二  
養子 法正

常憲院 皇元永正十三年五月十日

御目見之

文昭院御所代宮永正七年  
入宮保八  
昔如  
乙酉年

治身之良方也昔後世以級登而名者其初  
元文二年九月其弟病死之日年亦奔  
人皆流見其良方

忠正

和歌三川  
生也或考

和歌八十部

和歌八十部

有德院抄和歌元文二年九月其弟病死之日年亦奔

上之善也或考

有德院抄和歌元文二年九月其弟病死之日年亦奔

因年有月之文法也其多也守其節也信  
少善也德院抄和歌元文二年九月其弟病死之日年亦奔  
文死也其家遠也其年有月之文法也其多也守其節也信  
中書也其和歌也其入也後中書也其和歌也其多也守其節也信  
其年有月之文法也其多也守其節也信  
其年有月之文法也其多也守其節也信  
其年有月之文法也其多也守其節也信  
其年有月之文法也其多也守其節也信

女子

和歌

和歌

重陽

和歌

和歌

母

家母

今所書者其母也

懷信院柳河代官曆之三年二月九日又八日初死  
 同年二月八日又或武多言言河升位初死  
 上皇御之於多言而又配成法門之國年二月  
 即三月根言言武多言武多言武多言二月  
 松平初母又配成法門之國年二月  
 御月見之仁門曰丁亥年八月日松平武多言  
 在成日八月年二月日言即初死武多言  
 安永六年八月十日言武多言初死武多言  
 同九月子年八月日言武多言武多言武多言

上門身榮華

金陵院池應言譯

中國 三州

如多人合之也

忠藏

母

上皇御之於武多言

山言曰武多言武多言

初後父言言武多言武多言武多言武多言  
 又配之武多言武多言武多言武多言  
 去月言父武多言武多言武多言武多言  
 又父何言言武多言武多言武多言武多言  
 天明七年九月十日言武多言武多言武多言  
 同九年七月言武多言武多言武多言武多言

奉七年四月十日河野入字子元  
六月十日書立東后校子元

忠加

レ多ノリ

母 小寺治清ノ庶子元 河野入字子元

如子

河野入字子元

公ノ官政以五七年七月廿九日統領

三ノ首名 上鑑

或村部子元 河野入字子元  
河野入字子元 河野入字子元

一 在河野入字子元

七年七月廿九日

宣政十一日

七年九月

如多合之加 焉

は  
賜  
三  
友

系  
糖

未  
海  
白  
石  
行  
之  
書

房  
之  
書  
○  
海  
白  
石  
之  
書

小  
室  
作  
記  
海  
白  
石  
之  
書  
中  
之  
書

夏書

先祖而多如... 河... 書... 記... 未... 燒... 矣...  
河... 書... 記... 未... 燒... 矣...  
河... 書... 記... 未... 燒... 矣...

籀之紋 九之日本之字

篆之紋 四之

家之紋 九之月 立其

漢代... 收...

光波

中國生國... 之...

神名曰奉公仁  
唐長三年二月朔日卒九十有法部

光通

左史  
生國 二河

名德云下 冲奉云

元初元二年收野田通以領入高書  
五部人攻河津河津人後結唐人八十餘  
日向高結河大現之敵上河  
實承水大長唐年七月卒七十治部

重昌

生國 二河

實承水九之申年收河波唐有口年治部  
以乃 右史 巧方 下

人獻云下

實承水上 申年 口 史 人 書 明 友 史 云

同上一乙申年 龍甲 列 知 以 以 百 石 孫 順  
弟 忽 元 乙 辰 年 行 口 口 口 母 孫 孫 孫 孫  
明 曆 之 名 申 年 以 加 倍 以 口 後 孫 順  
延 定 元 乙 丑 年 考 長 少 孫 孫 入 口 口

伯修之祖

同之元年三月辭之休上改在

自号子之百字年十一月之九年之知新

知今九山知少字号知里院田久

安明

八月号 後 延五号

上國路何

唐安元四年三月行其入問者不之世安之

同之元年三月知及昔依深順

延字之元年一月家督

自号子之五字年十月之九年之知新

知少知

同之元年三月十日知信或知依深順  
元康二年乙未二月去不九年之知新  
号知少知院田久知新

安賴

唐安元 延五号 知少知

上國路何

母 家 知

延字之元年一月家督

嚴有公 即自見

同之元年二月下其入問者不之世安之

知

同八年甲午二月其知新院田久





母 友紙

元禄中比吉巳年編錦表女子之歳  
宝永六己丑年四月六日申水紀酒井  
因幡守地口右左少印主三右衛門  
守保定巳丑年九月六日亥時門  
号了骨院中存

安門

八之忠

母 友紙  
守保定巳丑年九月六日亥時中存

因十月生下形通

守保定巳丑年活右地口形通

因十月生下形通

守保定巳丑年活右地口形通

因十月生下形通

支配

因十月生下形通

守保定巳丑年活右地口形通

因十月生下形通

守保定巳丑年活右地口形通

因十月生下形通

安賴

少輔 後令在

安賴 少輔 後令在 安賴 少輔 後令在

安房

少輔 後令在

母

家母

百徳云即代

百徳云即代 安房 少輔 後令在 安房 少輔 後令在

安房 少輔 後令在

伯仲之親

安房 少輔 後令在

安房 少輔 後令在

安房 少輔 後令在

安房 少輔 後令在

安房 少輔 後令在

安積

少輔 後令在

母

家母

安積 少輔 後令在

御見

安永三年己卯八月八日遊曆周防及此書

有子安女之記

同日甲午年九月廿九日此世御遊

孝養公此御所遊所年凡丁御台江遊書記

天保元年丑年六月廿九日此世御遊

同日五月廿八日

善長御遊記

同日甲午年七月廿九日此世御遊

同日甲午年七月廿九日此世御遊

同日甲午年七月廿九日此世御遊

寛政元年丙午六月廿九日此世御遊

同日甲午年十月廿九日此世御遊

同日甲午年十月廿九日此世御遊

女子 長井おきく 書

女子 母 日記

安富 日記

信存 日記

天明六年正月廿七日  
小島島子

安則

女 今平所

安儀

海山所

女 父新所  
妻 本村七右衛門之妻

寛政二年正月廿七日  
小島島子

安儀

女 今平所

安信

女 今平所

安子

女 今平所

右へ通し

三島島子  
洋領所  
仲所

寛政五年

三十八年  
小島島子



ほ

差

未上り下  
石河

系譜

石河  
石河

石河  
石河

11

藤原姓

本多氏

先祖中務正光秀少城國定家郡加藤郡正任仁  
光秀惣領二條八節即秀豐後國日守郡  
本田郡。后任仁故本田八節即秀上改曰本多  
文字相改惟依何之時代。少許正光年月表  
不詳

家之紋

丸之内 立葵

舊紋

丸之内 木之字

幕之紋

丸之内 立葵

先祖中務正光秀少城國定家郡加藤郡正任仁  
家之紋 正







久次

忍信

母

妻

生

伊豆  
伊豆  
伊豆

小島  
小島

年月日... 又... 同... 賜... 幸... 以... 領... 格... 兩... 内... 在... 元... 領... 官... 又... 上... 年... 子... 有... 由... 此... 領... 以... 多... 之... 領... 領... 所... 者... 入... 以... 年... 庶... 家... 之... 七... 年... 七... 月... 日... 家... 能... 而... 凡... 然... 通... 事... 入... 上... 府... 之... 令... 保... 志... 家... 有... 元... 領... 入... 元... 領... 主... 上... 年... 甲... 子... 日... 在... 古... 年... 難... 七... 領... 家... 門... 亦... 号... 法... 淨... 院... 通... 白...

久命

上忍信

母

妻

生

小島  
小島

小島

元... 領... 主... 上... 年... 七... 月... 九... 日... 又... 訪... 自... 領... 通... 之... 府... 事... 以... 亦... 印... 在... 元... 領... 主... 上... 年... 甲... 子... 日... 在... 古... 年... 難... 七... 領... 家... 門... 亦... 号... 法... 淨... 院... 通... 白... 官... 又... 上... 年... 子... 有... 由... 此... 領... 以... 多... 之... 領... 領... 所... 者... 入... 以... 年... 庶... 家... 之... 七... 年... 七... 月... 日... 家... 能... 而... 凡... 然... 通... 事... 入... 上... 府... 之... 令... 保... 志... 家... 有... 元... 領... 入... 元... 領... 主... 上... 年... 甲... 子... 日... 在... 古... 年... 難... 七... 領... 家... 門... 亦... 号... 法... 淨... 院... 通... 白...

久時

印名久時 親原 陸石刑部如水

母 家母

妻 公四女

生口所

元文四年六月廿九日... 治原... 入... 院... 同六年... 月... 日... 治原... 入... 院... 安... 院... 現... 通...

同六年... 月... 日... 治原... 入... 院... 安... 院... 現... 通...

貞真 三子... 治原...

母 家母

元文四年... 月... 日... 治原... 入... 院... 安... 院... 現... 通...

久子 母 家母

久子 主統

女子

新田左衛門尉八郎重信

酒井權之助重久妻

久重

お重

母

家母

生口所

寛政六年九月九日卒於年之暮り  
号荒海院道岳

妙子

書所

書所  
妙子  
妙子

母

家母

久信

母

お信

家母

此水信子白通の信

本

打鐵二十郎の妻

生口所

寛政六年十月廿八日卒於年之暮り  
号松平水子文重

同七年十月廿八日卒於年之暮り  
号松平水子文重

同八年八月廿八日卒於年之暮り  
号松平水子文重

同九年八月廿八日卒於年之暮り  
号松平水子文重

同十年八月廿八日卒於年之暮り  
号松平水子文重

同十一年八月廿八日卒於年之暮り  
号松平水子文重

同十二年八月廿八日卒於年之暮り  
号松平水子文重

金子

母

酒井清太郎

家母

寛文八年八月廿七日  
酒井清太郎  
酒井清太郎  
酒井清太郎

幸在德川家

女子

母

久保清太郎

家母

久友

母

名親

名親久保清太郎

家母

久豊

印名吉太郎

惣持

印名吉太郎

久友

云

酒井清太郎

母

家母

妻

酒井清太郎

酒井清太郎

生

同九年八月廿七日  
酒井清太郎  
酒井清太郎  
酒井清太郎  
酒井清太郎  
酒井清太郎  
酒井清太郎  
酒井清太郎

女子

母

水井清太郎





是

寛政十一年三月廿五日  
寛政十一年三月廿五日

秀賢

母

名義正節  
信文正節  
信田下所改信女

安永元年六月廿五日  
寛政十一年三月廿五日  
御同見

東

定次郎  
早世

母

口

孝

早世

母

口

孝

人可貴同前  
信田下所改信女

母

口

孝

母

口

秀安

母

口



秀信

五月

母

口

右所奉命是改十年年以希(出)也  
四月廿四日(出)也(出)也(出)也

右通(出)也

五月

出(出)也

秀信

出(出)也

人職冠澤之流胤内合人即秀胤流  
于豊後國中多郷家名即多合符

幕之故 九之月(出)也

家之故 口(出)也

幕之故 九之月(出)也

内合人即秀胤(出)也(出)也(出)也(出)也

秀信

母

出(出)也(出)也(出)也

毒

石紙



正徳後の形も亦  
 元禄十三年己卯七月廿七日  
 常徳寺に於て  
 常徳寺に於て  
 常徳寺に於て  
 常徳寺に於て

母子  
 母子  
 母子

全次  
 十歳

養母  
 実父  
 実母  
 妻

常徳寺  
 常徳寺  
 常徳寺  
 常徳寺  
 常徳寺  
 常徳寺  
 常徳寺  
 常徳寺  
 常徳寺  
 常徳寺

新出書目以番語抄年之組上成  
享保二十一年二月一日

月光院御座書者以役神口依後始役神  
及公設神書後而內令出所決於以家  
元文之戊午年十月十日初九年知因家  
号中是院人全矣明下  
五音之書也

女子

母 中多十藏之次女  
中多十藏之次女

女子

母 長岡理右衛門 孫孫  
中多十藏之次女

秀房

十八部 十藏

養母

中多十藏之次女

実父

中多十藏之次女

実母

中多十藏之次女

妻

中多十藏之次女

後妻

中多十藏之次女

有徳云

正徳人己未年八月甲子日  
河代養父之次女也  
中多十藏之次女

古多保大原于年正月部部(通)行自并之

河内(通)保原

同(七)子于年三月(下)部(通)行(通)部

有德(下) 河内(通)保原(通)行(通)部

元(文)之(百)成(年)七月(下)子(通)入(通)部(通)行

同(年)三月(下)其(下)子(通)入(通)部(通)行(通)部

以(通)保(通)原(通)行(通)部(通)行

元(文)之(百)成(年)四月(下)子(通)入(通)部(通)行

夏(初)行(通)保(通)原(通)行(通)部(通)行

通(年)之(百)成(年)一月(下)子(通)入(通)部(通)行

并(之)子(通)入(通)部(通)行(通)部(通)行

和(年)之(百)成(年)三月(下)子(通)入(通)部(通)行

同(年)三月(下)其(下)子(通)入(通)部(通)行

和(年)之(百)成(年)三月(下)子(通)入(通)部(通)行

定(曆)年(下)其(下)子(通)入(通)部(通)行

入(通)部(通)行(通)部(通)行(通)部(通)行

同(年)之(百)成(年)三月(下)子(通)入(通)部(通)行

右(年)之(百)成(年)三月(下)子(通)入(通)部(通)行

和(年)之(百)成(年)三月(下)子(通)入(通)部(通)行

天(以)八(成)中(年)七月(下)其(下)子(通)入(通)部(通)行

和(年)之(百)成(年)三月(下)子(通)入(通)部(通)行

同(年)九月(下)其(下)子(通)入(通)部(通)行

和(年)之(百)成(年)三月(下)子(通)入(通)部(通)行

同二慶成平四月七日病歿  
葬同寺号法正院也母也  
二傳人及在香格也

如子

母

即多十歲

即多也

長郎

母

在六也

柳系

不知

吉子保正、幸吉平三月長吉、幸吉、長次、長治、長重、長元、長成、長子、長成

秀定

不知

母

同

定曆二、三、甲、年三月病歿

秀勝

不知

母

同

定曆二、三、乙、年三月病歿

如子

母

同

定曆二、三、丙、年三月病歿

女子

母

同

宣應元年甲戌年正月十日病歿

秀政

初

五

宣政

宣政元年正月十日病歿

宣政

宣政元年正月十日病歿

宣政

宣政元年正月十日病歿

宣應元年正月十日病歿

宣應元年正月十日病歿

宣應元年

宣應元年正月十日病歿

宣應元年正月十日病歿

宣應元年正月十日病歿

宣應元年正月十日病歿

宣應元年正月十日病歿

宣應元年正月十日病歿

宣應元年正月十日病歿

宣應元年正月十日病歿

宣應元年正月十日病歿

宣應元年正月十日病歿

女子

母

宣應元年正月十日病歿

女子

甲子年八月廿七日

年八月廿七日

母 同上

政直

字

母 外孫

安永二年甲午年九月七日

信美

字

信田字

母 同上

天明八年申年二月廿七日

政高

字

母 同上

女子

一信田字

信田字

母 同上

秀賢

字

信田字

母

信田字

安永二年乙未年二月廿七日

安永二年乙未年二月廿七日

御月



東

定次郎 早世

母

同

女子

早世

母

同

女子

人字部 竹内 早世

母

同

女子

母

同

秀安

母

同

秀信

母

同

五藏

右通 早世

三与 早世

生國 早世

早世

寛政十一年五月

早世

ほ  
和歌万葉  
集系令之如  
後 丁未

系譜

東三河  
溝口よ徳らふと

和歌系  
百七拾八卷の源氏と系

和歌系  
百七拾八卷の源氏と系

友京

本多

先祖内舍人助秀豊後國中津守  
源氏流流是家名本多下祿也

幕之故

九之目五卷

家之故

九向本字

大藏冠輝是之後胤也内舍人助秀  
十代中津守九藏兵衛五男  
秀吉若孫家  
中津守也

平多合人如秀次  
平多九藏秀吉官  
成給

始成信 平多宗重信

母 妻

平多正久其重次女  
平多宗重信  
右國次所生也如重女

慶長十六年正月日家武列  
寛永九年中平八月日  
人猷流保山河内日

同平九月日平人組中平年  
同平甲戌年二月日平出平信平  
同平甲戌年二月日平出平信平

同平二月日  
同平二月日

同平九月日平人組中平年  
同平甲戌年二月日平出平信平

慶安二己丑年二月日平元平  
同平甲戌年二月日平出平信平

同平甲戌年二月日平出平信平  
同平甲戌年二月日平出平信平

天和二壬戌年四月日平出平信平  
百依洋船致合平信平







女子  
母  
佛宗女官所書

成宗

昭政  
御名丸御次  
政方

養母

山崎

養父

山崎

養母

山崎

養父

山崎

元應二年五月廿九日  
常富院御所代  
右大臣卷子  
常富院御所代  
右大臣卷子  
元應二年五月廿九日

文昭院御所代

元應二年五月廿九日  
常富院御所代  
右大臣卷子  
元應二年五月廿九日





享保五丁未年二月廿五日寅父所書  
洋紙尾費田每町為三石所為四石  
實定之 享保五年三月十日

惇信院振師代役助右位正 石山以香入

法身切弟之旨儀并至以書院費

吾我 伊賀守組入

享保大乙亥年九月十日父所書

高臥在書院之旨儀并至以書院費

及之旨儀并至

同享保丁未年正月廿五日寅父所書

同享保丁未年正月廿五日寅父所書

此後復在少宮家以書院費各存儀書

細如御長父所書 洋紙尾田安

田安長所書 田安長所書 田安

田安長所書 田安長所書 田安

田安長所書 田安長所書 田安

田安長所書 田安長所書 田安

田安長所書 田安長所書 田安

田安長所書 田安長所書 田安

田安長所書 田安長所書 田安

田安長所書 田安長所書 田安

安秀

伊多津屋

母

家母

年号月日不詳此中位現改不詳年久不  
出門者女子子成也

成康

伊多津屋

母

遠見津屋信女

宝曆二年八月廿四日書信現改不詳  
伊多津屋信女子成也

信貞

青木信貞

母

家母

宝曆二年甲午月日不詳此中位現改不  
詳伊多津屋信女子成也

女子

母

伊多津屋

伊多津屋信女

女子

母

伊多津屋

宝曆二年七月廿五日不詳  
伊多津屋信女子成也





天保七年丁未年三月廿六日  
中野右衛門左衛門常春子之藏

妙子

母

神宮大進定親妻

家女

初生於天保七年九月廿六日  
母中野右衛門常春子之藏  
父中野右衛門常春子之藏  
母中野右衛門常春子之藏

果

母

果

中野右衛門常春子之藏

中野右衛門常春子之藏

天保七年九月廿六日  
父中野右衛門常春子之藏  
母中野右衛門常春子之藏  
父中野右衛門常春子之藏  
母中野右衛門常春子之藏

成盛

知事右衛門常春子之藏

母

中野右衛門常春子之藏

妻

中野右衛門常春子之藏

天保七年九月廿六日  
父中野右衛門常春子之藏  
母中野右衛門常春子之藏

歷代由山所屬...

私入...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

同治三年九月廿五日

御目見付

同治三年二月廿五日 中尾政房 御目見付

宣旨

上野之御目見付

同治三年八月廿五日 巨浪之御目見付

同治三年九月廿五日 海老之御目見付

宣旨

女子 早世

如 中尾白雲女

右之通 中尾白雲

之 宣旨 中尾白雲 洋烟 中尾白雲 中尾白雲

宣旨 中尾白雲 宣旨 中尾白雲



あまのりや  
横田大和と云

先祖書

左記  
昔九孫書。横田豊成

ほ  
あまのりや  
夏外

新出書横田大和と云  
あまのりや

後原氏

中三子成

後原氏大藏冠滿是公右之元帥

豐後守指江中今人語家久後豐後

之阿古也

恭親公奉仕官中多人節正附公

正原 次曾

家之紋

凡之四立葉

養命之紋

智之紋

本之字

本之字正原

正原

母

乙亥保元元年

高橋兼光門女

生御

天樹院御孫長子仕中奉公之御孫

古澤公以土意路向大御息長公之御孫

實承中平元年正月路向大御息長御

上列之御孫也

口上之御孫也

正平元年正月路向大御息長御

因上之御孫也

因上之御孫也

天樹院御孫長子仕中奉公之御孫

廣安三年十月七日路向大御息長御

口上之御孫也

正平元年正月路向大御息長御

因上之御孫也

生御

實承中平元年正月路向大御息長御

口上之御孫也

正平元年正月路向大御息長御

正體

陸氏

陸氏

母

三子孫在處女子

妻

陸氏家入女

生印年

慶安二年十月七日

山北庄地

進享二年四月

八孫後洋順

元禄元年

同九月

政具

新之信

政親

陸氏

陸氏

母

陸氏家入女

妻

入江八兵衛女

生印年

元禄二年三月

同七年八月其...  
多氏

元永元中...  
元

文照云...  
元

同...  
元

元...  
元

月光院...  
元

同...  
元

通塞...  
元

同...  
元

同...  
元

深...  
元

宝永...  
元

元...  
元

元...  
元

元...  
元

元...  
元

元...  
元

元...  
元

元...  
元

元...  
元

元...  
元

元...  
元

母 五紙

節少紙少中無所 節少紙少中無所 節少紙少中無所 節少紙少中無所

女子 小林四郎少中無所

叔 五紙

節少紙少中無所 節少紙少中無所 節少紙少中無所 節少紙少中無所

改良

田通 多門 物女

叔 入江以少中無所 奥宮子少中無所

生少中無所

宣平十七年三月十日 宣平十七年三月十日 宣平十七年三月十日 宣平十七年三月十日

同十八年二月十日 同十八年二月十日 同十八年二月十日 同十八年二月十日

元文二年三月十日 元文二年三月十日 元文二年三月十日 元文二年三月十日

大御所御所 御所

同文元年六月

信信公少中無所 葉門少中無所

同八月十日 建初民少中無所 建初民少中無所



十白録

同六年二月在京都之

上院所成之法

同九年九月十日所成之法

天明元年七月十日所成之法

又天明元年七月十日所成之法

天明元年七月十日所成之法

同六年二月十日所成之法

同七年九月十日所成之法

上院所成之法

同八年二月十日所成之法

上院所成之法

同九年九月十日所成之法

勝政

母

奥平正信母

天明元年七月十日所成之法

天明元年七月十日所成之法

直直

母

奥平正信母

天明元年七月十日所成之法

天明元年七月十日所成之法

政

又



母 口以  
天明二年八月廿五日安否  
以勝子

政靜

仁子所

母

長同平子所也

素

平中以後人定也

女子

母

多女

女子

母

口

女子

母

口

女子

母

口

平中以後人定也

某

延一節

母

平中以後人定也

右一節

右一節  
平中以後人定也

寶政上巳年

平中以後人定也

正經

は  
丁丑  
陽明年人

先祖書

未  
三月廿五日

藤原氏  
音七様久書。陽明年人

三月廿五日

伊予柳戸  
伊多志古三郎

先祖書

友系性

家之故 九之同立案

如多因啓故 下之字

幕之故 九之同立案

大職冠澤是十代之後商由秀量後四聖在  
任所江傳中多之家名之任以孫如多則在  
平次中如多九等重言未流如多甚以  
里盛次男

先祖之書  
年人 去年分書之甲

一 瑞祖 上國高 小多入今之帝重後

皇極天皇之出御始自上月宣智

後有院御中

常憲院御神田御殿之御成光天皇之御成光天皇

王願 御中九日 皇極天皇 御成光

因御成光

津瀧院御中

延喜九年閏年六月十九日 皇極天皇

御成光御成光御成光

同年三月其日切而無後津瀧院

天初三卷亥年之知少之月十八日

御成光身西凡之御成光御成光

因是日御成光御成光御成光

年号月日御成光

左錄二己巳年正月十八日御成光

同三月其日御成光御成光御成光

同三月其日御成光御成光御成光

同三月其日御成光御成光御成光

同三月其日御成光御成光御成光

同六癸酉年二月十八日御通判書

同七甲戌年正月十日大書之後施書

同八乙亥年正月十日大書之後施書

同九丙子年七月十日又出御書

同十丁丑年七月十日又出御書

同十一戊寅年七月十日又出御書

同十二己卯年七月十日又出御書

同十三庚辰年七月十日又出御書

同十四辛巳年七月十日又出御書

同十五壬午年七月十日又出御書

同十六癸未年七月十日又出御書

同十七甲申年七月十日又出御書

同十八乙酉年七月十日又出御書

同十九丙戌年七月十日又出御書

同二十丁亥年七月十日又出御書

同二十一戊子年七月十日又出御書

同二十二己丑年七月十日又出御書

同二十三庚寅年七月十日又出御書

同二十四辛卯年七月十日又出御書

平一潘宮院殿相少平近所奉國子  
弄

皇孫女

桐(因)宮院殿

花(因)宮院殿

皇孫男

潘(因)宮院殿

皇孫男

早世

皇孫男

如(因)宮院殿

享深又(因)宮院殿  
去月九日

月光院殿(因)宮院殿  
去月九日

皇孫男

早世

皇孫女

早世

一二代目

上(因)宮院殿

女

花(因)宮院殿

有章院御所代

正德(因)宮院殿  
去月九日

御所代



本館日後中込系河本國寺葬中

重出書

重出書

重出書

重出書

重出書

重出書

重出書

重出書

重出書

重出書

重出書

重出書

重出書

重出書

重出書

重出書

重出書

重出書

重出書



細糸節

安永九皇子年二月三日  
水鏡紅福葉紀伊縣上野郡  
同十一年二月五日  
物類流樹讀日録年  
外集

玄奉 忍願

玄奉 次男

寶政元己卯年二月  
寶政元己卯年二月  
寶政元己卯年二月

玄奉 二男

寶政元己卯年六月  
寶政元己卯年六月

玄奉 三男

天保元五年  
同六年  
二月

一 代目 三音後  
一 代目 三音後

母

天保元五年  
天保元五年



同平上月十日中坊名所之銀二張  
同七乙卯年二月十日火合所屬物之節  
先以銀子五匁

同八西辰年二月十日之條中書所銀二張  
也 城仁法孫攻孫德仁

同九丁巳年二月十日之條中書所銀二張  
同年三月十日布衣之條中

文化二年三月十日之條中書所銀二張

書

實子想願

此書係同友中書所銀二張

同友中書所銀二張

同友中書所銀二張

次男

同達三郎

女

式人

私書所銀二張

同平上月十日中坊名所之銀二張

實政十一乙卯年

同友中書所銀二張

詩

卷ノ下  
後下

卷ノ下  
子音羅音者 坂田豊彦

先祖書

二條所藏竹筒書  
重多稿入部

二條所門書之次  
御多指下御

- 一 代官身歸時生年之順次至列之得也  
御多指下御
- 一 白代官身歸時保身之得也至列之得也  
御多指下御
- 一 利根心平保身之得也至列之得也  
御多指下御
- 一 利根心平保身之得也至列之得也  
御多指下御
- 一 利根心平保身之得也至列之得也  
御多指下御

御多指下御

一 代官身歸時生年之順次至列之得也  
御多指下御

一 白代官身歸時保身之得也至列之得也  
御多指下御

一 利根心平保身之得也至列之得也  
御多指下御

一 利根心平保身之得也至列之得也  
御多指下御

一 利根心平保身之得也至列之得也  
御多指下御

源姓

野條氏

清和天皇時流天下之頂濃列室并居野條  
概有之稱實名有之

神名

石公御沙卷之氏子 古名丹波

野條氏源姓改り中侍有之御記有之巨細

如右

家之紋

九之門之葵

野之紋

九之内本之字

幕之紋

九之内之葵

石之紋者所自中侍有之御記有之

野條氏 石公御沙卷之氏子

中八十一師

後三三番

利友

母

家母

如右

家

如右

山城國上代見

利友侯父祇宗而居之御記有之如右  
子之御記有之御記有之御記有之御記有之

神名

御名

山口

御中世親今板倉國師有御記

如右長十九甲子年大坂之御記有之

如右先乙卯年大坂之御記有之御記有之









生の序

元禄十四年己未年六月五日辰戌前利雄誕生  
其母曰子富左衛門守左衛門源左衛門源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門

若人の子

方子保久 西暦年四月八日辰戌前源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門

延享二年己丑年二月七日辛酉辰戌前源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門

利雄

母

家母

右子保久利雄故父源右衛門源右衛門源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門

女子

母

家母

右子保久利雄故父源右衛門源右衛門源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門  
守右衛門源右衛門源右衛門源右衛門源右衛門

利國

父四郎

母

弟 十一年

父

父 利國 母 氏 弟 十一年

母

母 氏 弟 十一年

父

父 利國 母 氏 弟 十一年

母 氏 弟 十一年

父 利國 母 氏 弟 十一年

母 氏 弟 十一年

利秋

父

母

弟

父 利秋 母 氏 弟 十一年

利秋

父

母

弟

父

父 利秋 母 氏 弟 十一年

實母

家女

集

家女

生母

此方子之生母同三月廿八日在父之生利中物見在言是  
男子女子生利在生利中言是生利中言是生利中言是  
同月廿八日

同之西元一千九百零六年八月廿八日在父之生利中物見在言是  
久之所生利中言是

實之生利中言是生利中言是生利中言是生利中言是  
生利中言是生利中言是生利中言是生利中言是  
生利中言是生利中言是生利中言是生利中言是

生利中言是

實之生利中言是生利中言是生利中言是生利中言是  
生利中言是生利中言是生利中言是生利中言是

利安

生利中言是

母

家女

集

家女

生利中言是

實之生利中言是生利中言是生利中言是生利中言是  
生利中言是生利中言是生利中言是生利中言是  
生利中言是生利中言是生利中言是生利中言是  
生利中言是生利中言是生利中言是生利中言是



同平二月廿六日... 河内... 信... 九月... 今... 河内... 河内...

長女

長女

河内... 河内...

利光

長女

河内... 河内...

長女

河内... 河内...

長女

河内... 河内...

長女

河内... 河内...

信音

信音

長女

河内... 河内...

河内... 河内...

安郷

長女

信音

河内... 河内...

河内... 河内...

高野山長生寺

信敬

伊豆海市

母 上同

女子

母 上同

女子

母 上同

某

伊豆海市 早世

母

伊豆海市 女

石門山長生寺

三三音後 中國元後生國或子 伊豆海市 岩野山長生寺

三三音後 伊豆海市 女

伊豆海市 女

伊豆海市 女

三

系圖

御小納戸  
中身八巻



夏系

如多

昭源收法守府將軍新日人御義重  
次男山左衛門人空國弓土八目新治多  
正法解之百歲改收法如多智後与  
秀法之号

幕之收

九三幕九三木之字

家之收

九三幕

替之收

九三木之字

山名秀人百五十一代目

秀清

知名新七郎 官名典豐清

母素足守出生年齡病死年月葬  
地不知書物統文仕名以 正長年  
日飲切切以 官名知法名心賢

貞清

知名新七郎

母素足守出生年齡法名病死年月  
葬地不知書物統文仕名切切以 不知

利貞

知名新七郎

後名典長

母素足守出生年月葬地不知書物  
統文仕名飲切切以 官名知法名  
病死法名同心

貞通

知名新七郎 後名典長

實名不知

八代

母素足守出生年齡法名病死年月  
葬地書物統文仕名切切以 不知

東照君御所奉云之上信長五石河出陣之別  
風車山空水より味方より多し御合戦刻歳  
振九歳より石河に其後長久寺陣刻歳  
中河より敵石河藏討方より之に後解石河  
城より討死候中侍

実名石紙

之水

石河石紙

実名石紙

御在り

御書見付出上り年終石河石紙年月

奔地石紙書物院文信年終石河石紙

実名石紙

八藏

御書見付出上り年終年月石河石紙

書物院文信年終石河石紙

御書見付出上り年終年月石河石紙

定宝三年十月三日御死法名祥山院

通理石紙

金書

八藏

御書見付出上り年終年月石河石紙

紀伊殿家中之事  
紀伊殿家中之事  
紀伊殿家中之事

貞高  
貞高之五年六月  
貞高之五年六月  
貞高之五年六月

貞高  
貞高之五年六月  
貞高之五年六月  
貞高之五年六月

貞高  
貞高之五年六月  
貞高之五年六月  
貞高之五年六月

右之通事所記

文化七年八月  
文化七年八月  
文化七年八月

ほ  
あ

系譜

未三月十日  
河野人字公

彦系  
或百指著○源田系系

河野人字公  
河野人字公  
河野八藏

夏子姓

中多

昭源姓海守府抄年好四人抄紙本宣次郎表  
秀人之國字了大代目之列書り中多正清  
年三歳改此紅字中多正清と秀清

幕之紋

九之門立卷一本之字

家之紋

九之立卷

替之紋

九之本之字

乙未年正月十八日

貞尚

市大前八勢志摩之御前

母

不承

妻

紅梅堂

天和二年正月

始紀伊殿

西德六年正月

有德二年

同年六月

後

享保八年六月

而後以没科

同九年

有矣

同十年

千

同十一年

元文元年

成享二年

女子

母

伊達氏女

平海伊達氏女

女子

母

口

松平河原氏女

行貞

母

口

自傳 秘貞 藏如 八喜 右衛門 延喜

妻

丸山前 富仁 氏女 氏女 氏女

後妻

右 氏女 氏女

正徳入 未年正月 高信 氏女

惇信云

寛保元年七月十八日 初御座 氏女

氏女 氏女 氏女 氏女 氏女

氏女 氏女 氏女 氏女 氏女

同年三月十九日 氏女

定享二 氏女 氏女 氏女 氏女

氏女

同年正月 氏女 氏女 氏女

同年八月十八日

清明云

氏女 氏女 氏女 氏女 氏女





女子  
竹花  
上方

母  
同上

某  
豊能  
早世

母  
同上

女子  
母  
同上  
早世

母  
同上

某  
母  
同上  
早世

母  
同上

貞成  
市大節

母  
富仁氏女

女子  
母  
同上  
早世

母  
同上

女子  
養子貞成女

母  
同上

某  
右邊  
早世

母  
同上

貞女

貞節

貞人

養母

白部氏女

実父

山陰守  
曲淵守信貞信貞

実母

甲子  
押田友貞信貞

妻

甲子  
中多為解信貞女

此貞女子之曲淵信貞子也

宣應三年九月廿八日

此女信貞之入國也  
宣應三年二月二十日  
宣應三年二月二十日  
相在院園定以故

貞女

八大節 八行

母

中多為解母

伯父中貞貞續信貞記

女子

母

口上

女子

早世

母

白部氏女

女子

母

早世

女子

母

同上

永貞

母

常服節

八行

妻

母

福徳及口節豊隆

宝曆九年正月廿五日卒

次男之延良秀人其母福徳及口節豊隆

生有産弱有後母其母与延良秀

清明云 安永二年二月三日卒

孝養云 以初月廿五日卒 初年有母及延良秀

音後外母延良秀 音後延良秀

同八年三月廿五日卒

同八年二月廿五日卒

孝養云 其母行方

同八年三月十八日一統家女 其母音後延良秀

天保九年五月廿五日卒 其母音後延良秀

其母音後延良秀

同平之六月初八日

常所代出

多之旨函

任事者多更任修

同平十月廿五日又九月廿五日同日

同平十月廿七日以移路長山見答

官及六五年九月十日

人初之修出

多之旨函

任事者多更任修

同平八月廿五日又九月廿五日

同平十月廿七日

同平十月廿九日又八月廿九日

樹煙院承貞日信

養母

以初

養母村介之節白書

実者

以修書

以修書人白書

母

以修書母

虔貞

八太郎

八太郎

養母

以修書

実父

以修書者修

実母

以修書母

宝曆九年六月廿七日

永日候病者中子守之修書

寶政八年三月十九日  
支那三歲

因九巳年三月  
戶口  
功

寶政八年三月十九日  
高十部

女子

母

福原氏女

身

母

早世

女子

母

口

養女

養女  
口

口

忠貞

男 忠貞 忠貞

母

家母 忠貞 忠貞

和名八尋元女言 和名月白言

寛政八年十月卯日 和名忠貞言

和名九言 和名忠貞言

同九年二月十日 和名忠貞言

同十年二月十日 和名忠貞言

同十年八月十日 和名忠貞言

大綱 和名忠貞言

女子

母

同言

女子

母

同言

忠貞

母

忠貞

同言

右之通 忠貞言

ほ  
友

系譜

中  
氷見

友  
系譜

氷見  
系譜

音後  
中

寛政  
友



友系氏

本多

先祖中身元更光信於三列

權現保上御奉公仕光信嫡子元更光國次男也

親和名 石見公之丞希之次子何之家常守

外官：新統之御書知統天相親也

幕之致

海印角内之丞

家之致

九之門之丞

曆之致

九之田本之字

如美九子文光四郎

光義

如美九子

母 氏不知

妻 前四八子母

寛永六年八月廿九日

嚴有院御所代

正保二年十月廿九日新親王 皇弟在言依  
以金院者以御後部

元禄六年十一月廿九日新親王 皇弟在言依  
御入因八子言平上御弟在言依

同平三月廿九日新親王 皇弟在言依  
寛永六年七月廿九日新親王 皇弟在言依  
正保二年八月廿九日新親王 皇弟在言依  
元禄六年九月廿九日新親王 皇弟在言依

信音

如美九子

妻 前四八子母

母 氏不知

妻 前四八子母

母 氏不知

寛文十一年九月朔日  
常憲云 所代表者又常憲又男子云々

元禄七年甲戌年七月十日

因八乙亥年十二月十日

去月朔日

因九乙亥年六月十日

上後新

因十乙亥年七月十日

元禄七年甲戌年七月十日

元禄七年甲戌年七月十日

元禄七年甲戌年七月十日

因二乙亥年十月十日

因七乙亥年八月十日

元禄七年甲戌年七月十日

元禄七年甲戌年七月十日

元禄七年甲戌年七月十日

元禄七年甲戌年七月十日

元禄七年甲戌年七月十日

元禄七年甲戌年七月十日

元禄七年甲戌年七月十日

元禄七年甲戌年七月十日

二十八年八月... 号頭明信者

女子

女子... 信者妻

信教

信教... 光義女

右... 延喜二年...

信忠

信忠...

母

母

妻

妻

正德四年...

右方之節信者...

信者...

信者...

有信之印代

元文二年...

信者...

同二年...

及...

宣統二年十一月十日之孫殿昌病死  
葬以多身普光昭應

女子 夫人也  
一德友古所改信書

母 口

女子 母 口

女子 母 口

之親 尤女是 温中命 小信友

信友

養母 口

實父 先年  
卜山十有年為信友

實母 口

妻 口

宣統二年十一月十日之孫殿昌

有德云 叩代

宣統二年十一月十日之孫殿昌

宣統二年十一月十日之孫殿昌

宣統二年十一月十日之孫殿昌

宣統二年十一月十日之孫殿昌



實父 中山 漢后 常侍 敬啟

美母 敬啟

明和乙酉年九月廿八日

長久保 實父 男子 敬啟

多謝 敬啟

天明乙酉年九月廿八日

同和乙酉年十月廿八日

長久保 實父 敬啟

同和乙酉年十月廿八日

長久保 實父 敬啟

實政 二亥戌年四月廿八日

長久保 實父 敬啟

同和乙酉年十月廿八日

長久保 實父 敬啟

同和乙酉年十月廿八日

同和乙酉年十月廿八日

長久保 實父 敬啟

義重

母

敬啟

右 長久保 實父 敬啟









俊之

日藏物

母

家女

妻

江守

於長之割獲心之望也其後其子通  
院之立教寺立造波上人隨身以多其  
其御年長月日不知

大猷之

信通院之立教寺立造波上人隨身以多其  
其御年長月日不知  
之而如多其後其子通院之立教寺立造波上人隨身以多其  
其御年長月日不知

御改

實少水之乙亥年八月十日

大猷之

御改

御日見之

同年十月十日新親之

夫人之丹室之理人入

曰丁未年八月十日御印之

而後之り至也御印之

其月之如就之物系之

北條右邊之

也定也乙亥年十月十日御印之

一御印之物系之

在由為龍岡寺上并法名正學院賢卷宗  
圖

一 因彦即後年号月日名如武在口彦仲所  
何發洋順仁殿中修也

一 因彦即後并通院上立紙御城之節  
涉鈴仁多如也雖四就其外書為系統矣  
仁之年中修志書也

續青

母 家母  
素 守守守守

於自衣記守守守守守守守守守守

慶安元年八月廿日徒初任位也  
在門書院書所若人今命新座

美作多銀入  
因之云宮年三月是如書門山城守親

一長門守年三月信守守守守守守守  
万治元元宮年三月是如酒井藤守守

以之長就初守守守守守守守守守守  
多受作守守守守

延享七乙守年七月日守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守

此書之長尾藏不細書向新因之  
并法名法定院教天蓮樂生

俊廣

正長

母

家母

素

正長

於我長江戶年号月日名知生  
元禄五之申年七月廿二日亥時式部  
之河内也中少司名久之保如野之  
之俊廣十女法定院河内之知入

因上巳卯年五月廿七日打紙河内也  
之長河内書院書日御書入之命也  
之河内也河内也河内也河内也  
之河内也河内也河内也河内也  
正長五乙未年五月廿二日亥時式部  
之河内也河内也河内也河内也  
正長通伯大長

俊明

昭忠公

内長

母

家母

素

正長













同十一年八月十日 門城部宛  
二成

石通沙所准

浮船尾金中申之旨奉旨  
八丁所申事申事同  
左

三三首後

中國各所  
七國各所

本多内藏之助

千五十九日

寛政十一年三月一日

直後

五

未二行八八日  
四日各所

夜更

昔九日或更。物同申事

系譜

和紅海所

ほ  
ま  
ま

後

河幕

中多入金屋

一 先達より長公に記す藤原内實の事  
 永年二月に中興理体所を重領  
 水之助河又は藤原千尋は藤原  
 長子と云ふは同年有る事由常殿  
 所書より取らば通々藤原の事  
 なる事由なる

右 亦 藤原内實の事由なる事  
 由 二月 藤原内實の事由なる事

藤原姓

本多氏

先祖本多加賀守光次之河内佐藤氏多賀  
 山記守本家頼統之長統文は相和

心經之紋

九之内中文字

幕布之紋

右同新

家之紋

九之内五文字

長公の事由なる事由なる

本頼

初めは長公の事由なる事由なる

左同本頼

実父 曲淵徳盛 謚常尚游 誰家子 子 知

母 本家定重 不知

妻 不知

延宝元年六月四日 養父徳盛 在安房 上夜  
与番 山崎 寺 山崎

安房院 徳盛 知 山崎 徳盛 同 元年 行 善

又 山崎 徳盛 山崎 徳盛 徳盛 同 八月 中

年 六月 山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛

甲子 年 六月 山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛

山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛

安房院 徳盛 知 山崎 徳盛 同 元年 行 善

同 元年 六月 山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛

同 九年 山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛

山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛

山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛

山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛

山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛

山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛

山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛

山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛

山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛 山崎 徳盛



書  
此書在後世而其法極奇而極奇也今在  
其類在後世又其法極奇而極奇也

有德院極少代書保六  
校倉川後  
合代  
之代  
文配  
總  
入

此書在後世而其法極奇而極奇也今在  
其類在後世又其法極奇而極奇也

康金

卷四

此書在後世而其法極奇而極奇也今在  
其類在後世又其法極奇而極奇也

實文

此書在後世而其法極奇而極奇也今在  
其類在後世又其法極奇而極奇也

實母

此書在後世而其法極奇而極奇也今在  
其類在後世又其法極奇而極奇也

書

此書在後世而其法極奇而極奇也今在  
其類在後世又其法極奇而極奇也

有德院極少代書保六  
校倉川後  
合代  
之代  
文配  
總  
入

經年以來多事子孫無事而死在四年十月廿  
日或下至多松平氏出而監獄上後書信  
長久門之印子記入中後

信信院極少代而曆上之書年十月之兒中命  
少者入之 經年以來多事子孫無事而死

信羽院極少代而曆上之書年十月之兒中命

之 經年以來多事子孫無事而死

經年以來多事子孫無事而死

經年以來多事子孫無事而死

經年以來多事子孫無事而死

之後支配者水野大膳元元天明七年  
二月小谷依後者於其死後也 經年以來  
行之者依後者於其死後也 經年以來  
同年十月十日依後者於其死後也 經年以來  
乃自見之 經年以來多事子孫無事而死  
松平氏國師之友 經年以來

昔所代 同六年金平之依後者於其死後也 經年以來  
乃自見之 經年以來多事子孫無事而死  
乃自見之 經年以來多事子孫無事而死  
乃自見之 經年以來多事子孫無事而死  
乃自見之 經年以來多事子孫無事而死



孫氏伯後身成早長... 江戶... 年七月... 以收... 其... 年... 八月...

所為... 乃... 嗚... 人... 此... 年... 乃... 上...

後世の傳はるる所也。其の後世に於ては、  
其の徳を傳へて、其の徳を傳へて、  
其の徳を傳へて、其の徳を傳へて、  
其の徳を傳へて、其の徳を傳へて、

女子

早世

母

其の徳を傳へて、其の徳を傳へて、

其の徳を傳へて、其の徳を傳へて、

安景

母

其の徳を傳へて、其の徳を傳へて、

後世の傳はるる所也。其の後世に於ては、  
其の徳を傳へて、其の徳を傳へて、  
其の徳を傳へて、其の徳を傳へて、  
其の徳を傳へて、其の徳を傳へて、

此の徳を傳へて、其の徳を傳へて、

其の徳を傳へて、其の徳を傳へて、

其の徳を傳へて、其の徳を傳へて、

并衣

早世

其の徳を傳へて、其の徳を傳へて、

女子

早世

母

養母

其の徳を傳へて、其の徳を傳へて、

其の徳を傳へて、其の徳を傳へて、



Blank page with a small mark at the top left corner.

Blank page with extremely faint, illegible markings and a small mark at the top right corner.

